

【橋本社長に聞く】 グループビジョン2030 の実現に向けて

グループビジョン2030について教えてください

当社グループは2030年に目指す姿として、グループビジョン2030「次の社会へ、信頼のこたえを」を制定しました。これは、刻々と変わる社会に革新的なソリューションをタイムリーに提供して希望ある未来をつくっていくことと、さまざまな枠を超えてスピーディーに行動・挑戦して自らの可能性を拡げ成長し続けていくという意思を表現しています。このビジョンの実現に向けて、3つの注力フィールドを設定し、社会課題の解決に向けた技術開発に取り組んでいます。

3つの注力フィールドについて教えてください

当社グループはこれまでも、その時代における最先端の技術をベースに、高速な移動を支える新幹線、環境にやさしい天然ガス発電を支えるLNG運搬船など、世界初あるいは日本初のさまざまな製品を提供して、世界の人々の豊かな生活と安全・安心な社会の実現に貢献してきました。そして今、新型コロナウイルスなどのパンデミック、地球環境問題、多発する自然災害、エネルギー資源の確保、人口減少・高齢化など、急激に変化している社会課題を見据え、当社グループが注力すべき3つのフィールドを、「安全安心リモート社会」「近未来モビリティ」「エネルギー・環境ソリューション」と設定しました。

「安全安心リモート社会」は、医療・ヘルスケア、ものづくり、産業インフラなどさまざまな分野で、遠隔操作・ロボット技術などを用いて、安全で安心な社会の実現、および新しい働き方・暮らし方を提案します。さらに近年多発する災害から生命と財産を守るためのソリューションを提供します。「近未来モビリティ」は、無人で物資を運ぶヘリコプターや配送ロボットなどと航空機やオフロード四輪車さらにロボット技術などを組み合わせ、新しい輸送や移動手段を用いたスマートな社会を提案します。「エネルギー・環境ソリューション」は、世界に先駆けて水素を「つ



橋本 康彦 代表取締役社長執行役員

くる」「はこぶ」「ためる」「つかう」の水素サプライチェーンを構築するほか、輸送システムの電動化など、地球環境に配慮したカーボンニュートラルな社会の実現に貢献します。

技術面での強みはどういったところですか

「グループビジョン2030」で掲げた3つの注力フィールドは、すべてが新分野で、まさにフロンティアです。特に水素は、脱炭素社会の実現に向けた切り札になると信じ、10年前から他に先駆けて開発を進めてきました。長きにわたり培ってきた水素関連技術や運用のノウハウを、世界共通の規格として落とし込みグローバルスタンダードにできれば、当社グループの大きなアドバンテージになると考えています。これは、医療用ロボットやモビリティなどにおいても同様です。こうした活動によって、多くのプレイヤーと協働しながら、私たちは将来にわたって市場をリードする存在であろうとしています。

最後に

これまでの厳しい競争で培ってきた当社グループの高い技術力は、まだまだ多くの社会課題解決に生かすことができると考えています。そのために必要なのは、変化の激しいマーケットに敏感に対応するマーケットインの発想です。また、多くの従業員が広い視野とチャレンジ精神を持って活躍できるよう人事制度を改革し、全社の力を結集できる仕組みも作りました。これからも当社グループの技術シナジー、さらには関係先との連携によるオープンイノベーションを通じてマーケットが求める社会課題にスピーディーに対応し、グループビジョン2030の実現に向けて、的確なソリューションを提供してまいります。